

2018年度 卒業生答辞

本日、私たち卒業生一同は、晴れて神奈川大学の卒業式を迎えることができました。学生生活最後の締めくくりとなるこの良き日に、お忙しい中、ご列席くださいました諸先生方、並びにご来賓の皆様方には厚くお礼申し上げます。また、このように盛大な卒業式を挙行してくださいましたこと、そして、先ほど兼子学長から温かいお言葉をいただいたことに深く感謝いたします。

私が神奈川大学への入学を志したきっかけは、充実した経済支援が受けられる給費生制度の存在でした。念願が叶い、給費生として過ごしたこの4年間は私にとってかけがえのない大切な時間であり、給費生だからこそ得られたものが多々あります。1年次の海外研修では、高い志を持ち、人生を通して切磋琢磨し合える大切な仲間に出会えました。アメリカでのたった3週間の研修でしたが、この研修で出会った仲間と共に過ごした時間は、私の学生生活で一番の財産です。共に講義を受け、ホストファミリーや現地の学生たちと交流していく中で、自分たちの思いや考えをぶつけ合い、お互いを深く理解し合うことができました。学部も年齢もこれまで生きてきた環境も全く異なる仲間たちですが、給費生という同じ立場だからこそ分かり合えることも多く、心から尊敬し合えるようになったのだと思います。研修後も、彼らとは多くの時間を共にしてきました。給費生だからこそ出会えたこの仲間たちを、これから先の人生でも大切にしていきたいと思っています。

そして、何よりも、無事に大学で学業を修め、卒業式を迎えた今、こうしてここに立つことが出来たのは、給費生制度のおかげです。給費生として入学できたからこそ、私は自分の学びたい学問としっかり向き合い、十分な時間をかけて学問に取り組むことができました。その中でも、ゼミナールで研究したシェイクスピアの作品からは、これからの人生を生きていく上で大切な教訓を得ました。シェイクスピアの作品には多くの場合、表と裏の相反するメッセージが存在します。表のメッセージを読み取ることは簡単ですが、裏のメッセージを読み取るためには、作品を様々な観点から考察し、自分の頭で熟考しなければなりません。そして、多くの場合、真実はこの裏のメッセージにあるように思われました。それは、人生においても同じではないかと思います。自分の常識にとらわれず、物事を多角的な観点から捉え、熟考することで、初めて真に価値あるものや自分にとって大切なものが見えてくるのではないかと思います。このことを私はゼミナールの研究から学びました。この教訓を忘れず、今後の人生をより有意義なものに出来るよう、これからも日々精進して参ります。

私は、給費生として入学させていただいたことに心から感謝しています。また、神奈川大学給費生として卒業できることを大変光栄に思います。給費生制度は、経済支援を必要とする学生にとっての希望の光です。今後は卒業生の一人として、この伝統ある素晴らしい制度が、これからも多くの学生に希望を与え、発展していくことを願います。

4月からは、それぞれ自分の選んだ道を歩んでいくこととなります。それがどのような道であっても、神奈川大学で過ごす中で重ねた様々な経験は、自分の道を切り開いていくための糧となるでしょう。この4年間で学んだ学問と培った知識を生かし、社会に貢献していくことで、神奈川大学へ恩を返していけるよう邁進して参ります。

最後になりましたが、今日までご指導、ご支援していただいた諸先生方、および職員の皆様、どんな時にも温かく支えてくださった保護者の皆様、並びにご多忙の中ご列席くださいました皆様方に、卒業生を代表して心よりお礼を申し上げます。

4年間、本当にありがとうございました。

皆様方のご健康と神奈川大学の更なる発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

2019年3月19日

卒業生代表 外国語学部 英語英文学科 4年 水谷香澄